

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年1月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年1月12日～1月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 126社
- 回収率 63.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より10.6ポイント改善の▲23.8となった。

2017年9月以来65ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲30.2、当月と比べ6.4ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	先行き見通し 2023年2月～ 2023年4月
業況	▲26.9	▲21.5	▲19.2	▲21.4	▲34.4	▲23.8	▲30.2
売上	▲2.4	10.3	14.4	3.9	▲11.7	▲5.5	▲12.7
採算	▲30.1	▲24.6	▲20.8	▲23.0	▲29.7	▲25.4	▲30.2
仕入単価	▲72.4	▲75.4	▲78.4	▲72.2	▲72.7	▲69.8	▲69.8
販売単価	34.2	36.5	32.8	37.3	33.6	29.3	23.8
従業員	34.9	37.3	40.8	40.5	35.2	31.7	32.5
資金繰り	▲14.7	▲12.7	▲10.4	▲11.9	▲14.8	▲15.1	▲16.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	先行き見通し 2023年2月～ 2023年4月
建設	▲46.7	▲43.3	▲38.7	▲35.5	▲53.1	▲51.8	▲48.3
製造	▲30.8	▲16.7	▲25.9	▲13.8	▲28.6	▲19.3	▲25.8
卸売	▲17.8	▲17.3	▲10.8	▲21.4	▲20.0	▲7.4	▲22.2
小売	▲21.0	▲21.0	▲16.6	▲11.8	▲25.0	▲18.7	▲37.5
サービス	▲10.0	0.0	4.7	▲19.1	▲40.9	▲17.4	▲17.4

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・工事受注量の減少に加え、資材・燃料、下請施工費の高騰等により利益が圧迫された。（総合工事） ・工事受注量は、引き続き戸建てを中心に昨年と比べ減少傾向が続いている。原材料の高騰分がなかなか売上に転嫁できていないため、今後当社の業績はさらに低下すると予想している。物価上昇分の価格転嫁を進めないといけないと感じている。その中でも、人材については将来を見据え即戦力(資格保有者)と若い人材の確保を積極的に進めていく。（設備・その他） ・建築単価の上昇や中古住宅へのシフトのほか、他社との競合が要因と思われる新築住宅の受注確保が厳しさを増している。市内業者との薄利競合を回避すべく、今後は郊外や地方のユーザーに比重を置いた営業戦略を視野に入れ展開していく方針である。冬期間の売り上げが大幅に落ち込み、業況は非常に厳しい。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は微増で推移しているものの、光熱費・原材料等の上昇で利益率が伸びていない。この状況が続くと資金繰りにも影響が出ると思われる。（食料品） ・原材料高騰を受け 2 月に商品全体のリニューアルと価格改定を行うため一時的に売上が落ち込むことが予想される。（家具・木材） ・コロナウイルスの影響で 3 期連続の事業悪化。リーマンショックの頃と同じ様な事業展開になってきている。先行不透明で国からの助成金も今期で終わることから厳しい経営となるだろう。（家具・木材） ・今年は急務である人材確保を 1 番の目標に掲げ取り組みたい。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・電気など水道光熱費の増大による経費増加、利益の減少。老朽化による設備補修・修繕箇所多数。水産業界は円安の影響を大きく受け輸入小麦物原料の価格高騰した後、反転仕入価格と市中相場のギャップ発生による含み損が発生している。（飲食料品） ・仕入単価の上昇が続いており価格転嫁できているが、今後どうなるか見通しが立たないため不安である。（機械鋼材） ・灯油の仕入価額の上下動きはあるものの、小幅で推移すると思われる。販売単価は昨年 12 月より変更なし。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・1 月、成人の集い用スーツの需要が全く無い。スーツ売上が減少し、ウインターセール(冬物)も全く売上が見込めないため 1 月売上が大変厳しい状況。プロパー販売出来るブランド(商品)構成を考えなければならない。（衣服身回品） ・9 月より単月ベースでコロナ禍以前に回復。しかし、原材料・包材・光熱費等の高騰の影響で利益計上が厳しくなっている。弊社も販売価格値上げを実施しているが、仕入価格高騰分 100%での転嫁は出来ていない。値上げは顧客離れの懸念があり様子を見ながらの状況。また、人材不足が未だ解消できず、さらに政府の人件費引上げ圧力も脅威となっている。（食料品） ・例年冬季間には使用電気量が増えるため、電気料金の高騰による経費負担が増え、かつ最低賃金の引き上げによる人件費の増加と合わせ、採算性を低下させている。人員不足と物価高騰により、きめ細かな販売が出来にくく付加価値の高い商品が売れにくくなっている。（その他） ・仕入れ価格の上昇。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にコロナウイルス感染増加のため、旅行者が減少し、宿泊者が少なく、ホテルのリネンサプライの利用が少なくなっている。売上が減少するため非常に厳しい。（理美容・クリーニング） ・全国旅行支援の影響で、客単価は上昇しているが、客数はそれほど増えてない。外国人観光客も少しずつ戻って来ているようなので、今後に期待したい。（ホテル・旅館） ・物価高騰に伴い従業員の賃金アップを検討している。（その他） ・観光客も増加しているため売上はコロナ前に戻ってきているが、仕入価格の上昇が止まらず、利益の減少が続いている。（飲食） ・コロナウイルスからの回復基調は続いており、冬期の増客時期もあり収入面は好転(コロナ前同時期の 85%)傾向は良いことだが、諸経費の高騰で経費圧縮ができず、収支面での回復を厳しくしている。この 3 年間の収入激減に伴う多額借入金の返済負担は非常に大きく、収支は好転しても資金繰りは悪化の一途。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI10.8 ポイント悪化、採算 DI0.7 ポイント改善、仕入単価 DI8.2 ポイント改善、販売単価 DI8.4 ポイント悪化、資金 DI1.2 ポイント改善、従業員 DI6.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他 34 ポイント悪化、総合工事 26 ポイント、建築業 2 ポイント改善となった。今年に入り更なる建材・住設の単価上昇のため、販売単価も上げざるを得ない状況。新築は減っているが、リフォームは好調傾向との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI6.3 ポイント改善、仕入単価 DI0.1 ポイント改善、販売単価 DI7.5 ポイント悪化、資金 DI1.1 ポイント改善、従業員 DI13.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版横ばい、食料品 11 ポイント、家具・木材 6 ポイント、金属窯業他 14 ポイント改善となった。一部原材料不足による生産の低下との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI18.1 ポイント改善、採算 DI3.4 ポイント改善、仕入単価 DI4.1 ポイント悪化、販売単価 DI2.3 ポイント改善、資金 DI4.4 ポイント悪化、従業員 DI1.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品横ばい、繊維・衣服等 35 ポイント、機械鋼材 17 ポイント、その他 10 ポイント改善となった。採用活動にて次年度に予定した人数を採用することができたとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI18.8 ポイント改善、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI6.3 ポイント改善、販売単価 DI6.2 ポイント悪化、資金 DI6.2 ポイント改善、従業員 DI 横ばいとなった。総じて業況 DI は 6.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品 50 ポイント悪化、食料品横ばい、その他 7 ポイント、自動車 40 ポイント改善となった。来客数がコロナ禍以前に戻らないため、売上も落ち込んでいるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI8.3 ポイント改善、採算 DI9.6 ポイント改善、仕入単価 DI3.1 ポイント改善、販売単価 DI0.9 ポイント悪化、資金 DI3.2 ポイント悪化、従業員 DI6.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 23.5 ポイント改善となった。業種別では、理美容・クリーニング、整備業横ばい、ホテル・旅館 50 ポイント、その他 40 ポイント、飲食 15 ポイント、運送 42 ポイント改善となった。コロナ後が少し見えてきたように感じる。インバウンドの動きも出始め、今後に期待したいとの声も寄せられている。</p>